



2018 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (2018 SUPER FORMULA) 第 3 戦: スポーツランド SUGO (宮城県村田町) レース報告書

予選: 5 月 26 日 (土)

天候	晴れ
観客動員数	7,700 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 14 位 伊沢 拓也 選手 (#65): N/A

決勝: 5 月 27 日 (日)

天候	晴れ
観客動員数	16,500 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 5 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 14 位

<予選レポート>

悪天候で開催中止となった第 2 戦・オートポリスから 2 週間を経て、第 3 戦はスポーツランド SUGO に戦いの場を移し、19 台の熾烈なバトルが繰り広げられます。開幕戦から好調ぶりを見せる TCS NAKAJIMA RACING は、金曜の専有走行から僅差のタイムで上位 16 台が 1 秒以内に名を連ねる接戦で、公式予選に向けよりいっそう期待が高まっていたものの、土曜日・午前中のフリー走行で 2 台ともクラッシュを喫する波乱が起こります。

このクラッシュにより、伊沢拓也選手のマシンは損傷が大きく、予選への出走を断念します。一方、ナレイン・カーティケヤン選手は予選 Q1 に臨みます。

カーティケヤン選手はミディアムタイヤでタイムアタックを開始します。1 セット目のタイヤによるアタックを終え、一旦ピットへ戻り、タイヤ交換とマシンの調整後、再度アタックに挑み、1 分 05 秒 743 をマークします。残り時間が 1 分となったところでコースアウト車両が発生し、赤旗が掲示されます。残り時間 2 分 20 秒でコース再開となり、最後までデッドヒートが繰り広げられた結果、カーティケヤン選手は 10 番手で Q1 を突破します。

7 分間で争われる Q2 では、ソフトタイヤを装着し上位 8 台を目指してアタックに挑むものの、コースインのタイミングが悪く、タイムは思うように伸びず、1 分 05 秒 584 で 14 番手タイムとなり、ここで予選を終えます。

Q2 に進出した 14 台が 0.74 秒の間に並ぶ、非常に拮抗したセッションとなりました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「カーティケヤンはアタックのタイミングが悪く、僅差で 14 番手となりましたが、Q3 進出までもう少しのところまで来ていると思います。伊沢に関しては朝のクラッシュによる損傷が大きく、予選に出走できなかったことが残念でしたが、明日までになんとか修復して、レースに出走できる状態に修復しようとメカニックたちは懸命に頑張っています。SUGO では様々な波乱が起こるサーキットですので、2 台とも、ひとつでも順位を上げてチェッカーを受けられるよう、引き続き準備を進めます」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“I was very good today. We had a card to get into Q3 with no problem but I was blocked on my fast lap by other car. It's a small track 3.7km so everyone wants to have a flag position. I will do my best tomorrow. Thank you.”

「今日の調子はとてもよかったです。Q3にも問題なく進出できると考えていましたが、あいにく計測ラップで他車にブロックされる状況になってしまいました。SUGOは一周が3.7kmの短いコースなので、より上位のポジションを取っておきたかったです。明日は気持ちを切り替えてベストを尽くします」

伊沢 拓也 選手:

「朝のフリー走行でクラッシュしてしまい予選に出走できませんでした。大きなクラッシュでしたが、たいしたケガもなく、走ることに支障はありません。調子も悪くありません。予選を戦いたかったのでたいへん残念ですが、チームが明日に向けてマシンを修復してくれているので、期待に応えられるよう頑張ります」

<決勝レポート>

薄曇りで迎えた決勝日は、日が差す場面もあり比較的過ごしやすーい一日となったこの日のスポーツランド SUGO。なんとか修復を終えた65号車も9時から行われたフリー走行に出走できました。TCS NAKAJIMA RACINGは2台体制で決勝レースに向けた確認作業を終え、決勝スタートに備えます。

スタート進行中の8分間のウォームアップ走行で、65号車がアクシデントに見舞われるものの、スタート前にはグリッドにマシンを並べ、無事に2台でスタートを切ります。ソフトタイヤで14番グリッドからスタートしたカーティケヤン選手はオープニングラップで1台をパス、4周目には一気に2台をパスし11番手に浮上します。その後も、徐々にピットストップを行うマシンや、コースアウトや接触などでリタイアするマシンも現れ、9番手を走行していきます。

16周目で2台が絡むアクシデントが発生し、セーフティカーが導入されたことで、レース展開に大きな動きが現れます。カーティケヤン選手はこのタイミングでピットストップを敢行し、ミディアムタイヤに交換、給油も行い、コースに復帰します。セーフティカーがコースアウトし、レースが再開した24周目には11番手に後退しますが、粘り強く周回を重ね、着実に順位を上げていきます。

後半に入っても、気を緩めることなく果敢に攻め続け、ピットインする上位陣や、トラブルでリタイアするマシンも現れ、カーティケヤン選手は5位でチェッカーを受けます。カーティケヤン選手は今シーズン初のポイント獲得となりました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「いろいろなアクシデントがありましたが、2人のドライバーはよくやってくれました。カーティケヤンは今季初のポイントを獲得し、ようやく速さを証明できるようになってきましたし、次戦に繋がる大切なポイント獲得だと感じています。伊沢も準備不足の中、完走を果たしましたので、次のレースが楽しみです。今回もたくさんのご声援をありがとうございました」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“The race was excited. My start was good. Moved from P14 to P11 and then I took over two more cars. Our strategy was quite good, when we stopped during the safety car. The pit stop and pit crew was very fast and we made up some track position. We had opposite strategy to many cars, so ware on medium tires for a long time. So medium tires on this condition of the track was getting cooler was not fast enough. If I got better position in qualify, I'm sure our car was good enough to top three. Now we are good baseline so we will push for all the races.”

「とてもエキサイティングなレースでした。スタートで14位から11位に順位を上げた後、さらに2台を抜くことができました。セーフティカーがコースインしている間にピットインするなど、戦略面の判断も極めて的確でした。ピットクルーの作業も迅速で、さらにポジションを上げることができました。今回、私たちは、大半のライバル勢とは逆に

ミディアムタイヤで長く走る戦略を採りました。ミディアムタイヤ自体のコンディションはよかったのですが、路面温度が下がり思うようにタイムが伸びませんでした。予選でポジションを上げられていれば表彰台も狙えていたはず。チームがよい調子になってきたので、さらに前進できるよう頑張ります」

伊沢 拓也 選手

「昨日のクラッシュからチームがマシンをしっかりと直してくれて、レースを無事に完走できたことについて、何よりもチームのみんなに感謝しています。それをポイント獲得という結果に繋がれなかったことは残念でしたが、マシンがしっかりと走って無事にゴールできたことが一番だと思いますので、完走できて本当によかったと思います。今回の分を取り返せるよう次戦も頑張ります」

以上